

一般的喫煙室モデルにおける受動喫煙の実態調査

○本庄 勉（一般財団法人滋賀保健研究センター）
中村 剛
大道 重夫

I. はじめに

近年、喫煙による健康への影響に社会的関心が高まっており、快適職場環境の確保の観点から、職場における喫煙対策が求められている。

喫煙に関する規制においても、労働衛生管理の一環として一層の対策を施すことが求められている。今回、受動喫煙低減の方法を模索するとともに、労働衛生管理水準の向上に資することを目的として、事業所における喫煙室の状況、一般的喫煙室モデルにおける粒子状物質・ガス状物質の濃度分布などを調査したので報告する。

II. 調査の対象及び方法

1. 事業所における喫煙室の状況調査

調査対象：滋賀県内の事業場（100件）

調査方法：喫煙室の管理状況、喫煙対策機器の設置状況等を調査した。

2. 一般的喫煙室モデルにおける濃度分布調査

事業所内の一般的な喫煙室を例にとり、粒子状物質（コフィン、タール等）・ガス状物質（一酸化炭素）の濃度を測定し、時間的・空間的な分布状況を調査した。

III. 調査結果

1. 事業所における喫煙室の状況調査

事業所における喫煙室の状況を調査し、有効回答を得られた事業場 92 件について集計した。

①喫煙する場所はどこですか？

屋内 69 件（75%）、屋外 23 件（25%）

②①の「屋内 69 件」について、専用の喫煙室はありますか？

ある 60 件（87%）、ない 9 件（13%）

③②の「ある 60 件」の内、食堂と兼用（5 件）を除く 55 件について、喫煙室の大きさ（床面積）は？

30 m²未満 49 件（89%）、30 m²以上 6 件（11%）

④②の「ある 60 件」について、喫煙対策機器はありますか？

換気扇のみ設置 50 件（83%）

空気清浄機、換気扇併用 7 件（12%）

なし 3 件（5%）

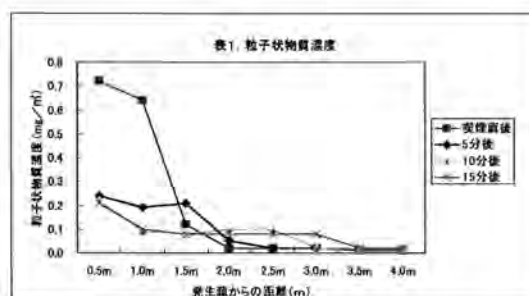
以上の結果より、換気扇のみが設置された床面積

30 m²未満の喫煙室が一般的であった。

2. 一般的喫煙室モデルにおける濃度分布調査

事業所内の一般的な喫煙室を例にとり、粒子状物質（コフィン、タール等）・ガス状物質（一酸化炭素）の濃度を測定し、時間的・空間的な分布状況を調査した。（表 1）

濃度分布調査の測定値と、「新たな職場における喫煙対策のためのガイドライン」の基準値と比較した結果、喫煙室内及び、喫煙室出入口前で基準値を超え、受動喫煙の危険性が高いことが認められた。



IV. 考察及び結論

喫煙室モデルにおける濃度分布調査の結果、喫煙室内及び、喫煙室出入口前で基準値を超え、受動喫煙の危険性が高いことが認められた。喫煙室内の換気を確保し、喫煙に伴う有害物質を喫煙室内に滞留させない留意、喫煙室外に漏れ出さない留意が必要と考える。

今回の調査から、喫煙対策に対する関心は高く、組織全体で分煙の取り組みが進んでいる印象を受けた。しかしながら、人が多く行き来する場所に喫煙室が設けられている場合が多く、非喫煙者に対する配慮がやや不足している印象も受けた。たばこは嗜好品であり、全面禁煙の困難な場合もあろうが、作業環境測定等によりリスクの程度を知ることが可能である。その情報を基に、より良い分煙計画や環境改善計画の立案に結び付けることができる。

喫煙者と非喫煙者の両者が快適と感じる職場環境の形成に少しでも役立てば幸いである。